

共生ビジョンに記載する「圏域の人口等の目標」「具体的取組に関する基本目標・成果指標(KPI)」に対する共生ビジョン懇談会及びパブリックコメントによる意見等

資料1

(注) 各意見中、下線部分は、今回の共生ビジョン一部改正において検討する必要がある、基本目標・成果指標等の設定に関する意見。

u003c/divu003e

1 圏域の人口等の目標について

中長期的な将来人口及び年少・生産年齢人口比率の展望	2015年 (平成27年)	2020年 (平成32年)	懇談会での意見	パブリックコメントでの意見	意見に対する考え方
圏域の展望人口(2015年は国勢調査に基づく人口、2020年は「人口ビジョン」(平成27年度作成)に掲載する将来展望人口の各市町村の合計)	151,453	145,621	圏域の展望人口は、社人研による推計人口とかけ離れており、減少に歯止めがかかっていない現状から、現実的ではないと思われる。		圏域の各市町村とも、人口減少の抑制に向けて、平成27年度に先行して作成した「人口ビジョン」に基づき、平成31年度までを計画期間とする「地方版総合戦略」による各種取組を進めているところ。 このため、今回の改正では、各市町村の「人口ビジョン」の合計を圏域の展望人口とするが、現行の共生ビジョンでの目標値としている平成32年の人口等の動向を見極めながら、次期の共生ビジョンを検討する際に、当該人口等の見直しの可否についても精査したい。
(参考)国立社会保障・人口問題研究所による推計人口(平成25年3月公表)の各市町村の合計	151,654	139,734			
年少・生産年齢人口比率(%)	62.8	60.4			
(参考)国立社会保障・人口問題研究所による推計人口に基づく比率(%)	63.2	60.0			

2 具体的取組に関する基本目標・成果指標(KPI)について

政策分野 具体的取組	基本目標 ・成果指標(KPI)	現状値	目標値	懇談会での意見	パブリックコメントでの意見	意見に対する考え方
1 医療	圏域内人口10万人当たりの病院・一般診療所の ①施設数(か所) ②病床数(床)	82.89 2,518.5	82.89 2,518.5	医療分野では、基本目標、KPIとも「現状維持」の目標値となっているが、現状ではこれが精一杯であると思う。 周産期医療についても、再開に向けて努力していくしかない。		(原案どおり)
(1) 地域の実態に見合った初期救急医療体制を確保する	初期救急医療体制を構成する医療機関での応需日数(日)	366	366			
(2) 小児科及び周産期医療体制を確保する	①地域周産期母子医療センター(北海道社会事業協会小樽病院)の分娩取扱再開に向けた支援 ②小児救急医療の応需日数(日)	分娩取扱 休止中 366	分娩取扱 再開 366			
(3) 圏域内の公立病院と公的病院を中心とした各医療機関との連携及びネットワークを促進する	圏域内の公立病院と連携する医療機関数(か所)	96	96	今後、医療と介護のネットワークについても、共生ビジョンの取組として考えていく必要がある。		(原案どおりとするが、今後、協議が必要)
2 産業振興	圏域内の ①-a 収穫量(水稲・野菜類)(ト) ①-b 農業産出額(推計額)(百万円) ②-a 水産物漁獲高(ト) ②-b 水産物出荷額(百万円) ③製品出荷額等(百万円)	12,330 9,590 15,274 6,317 192,210	12,330 9,590 15,280 6,320 192,210	中心市と町村とのネットワークづくりを官民連携で進めながら、『地域ブランドの開発』に関する指標等の設定があってもよいと考える。	『経営耕地総面積』に耕作に使われていない土地も含まれていないか。 ・「振興」の観点ならば、農業についても「出荷額」のような指標・目標値の設定をした方がよいのではないか。	指摘のとおり、「経営耕地総面積」には、『何も作らなかった田や畑』も含まれる。 このため、農業に関する基本目標としては、より実態の反映を図るため、水産業と同様に、「収穫量」及び「農業産出額(推計)」に変更する(農水省『作物統計』、『市町村別農業産出額(推計)』から集計)。
地元農水産物及び特産品に関する情報を相互に提供し合い、これらを活用した地域ブランドの開発を進めるとともに、関係団体等と連携し、国内外に向けて地元農水産物及び特産品の販売戦略を展開する	①展示商談会等における商談件数(件) ②海外展示会等参加企業数(社) ③アンテナショップ件数(件) ④小樽物産展主催件数(件)	412 7 1 1	460 10 1 1			
若者の雇用支援、起業の促進に向けた支援を推進する	圏域内における ①高校生の圏域内就職率(%) ②新規起業数(人)	43.6 50	47.0 109		「高学歴化」を考慮し、「大学卒や中途退職者の就職率」を成果指標に設定した方が適切ではないか。	「雇用支援」に関する現行ビジョンでの取組内容においては、高校生を対象としたものであるため、成果指標は原案どおりとする。
3 広域観光	圏域内の ①観光入込客数(千人) ②宿泊客数(千人)	11,941.5 1,006.0	16,000.0 1,200.0	客単価(観光客一人当たり平均の観光消費額)を指標としてもよいのではないか。	『滞在時間の延長を図る』ならば、「観光客の1回の平均滞在日数」も指標・目標値設定した方がよいのではないか。	(消費額、滞在日数とも)圏域全体での経年データの把握は行っていないため、原案どおりとする。
(1) 圏域内での周遊性を高め、滞在時間の延長を図る	(再掲)圏域内の ①観光入込客数(千人) ②宿泊客数(千人)	11,941.5 1,006.0	16,000.0 1,200.0	二次交通やWi-Fi環境の整備などは、観光客だけでなく、住民にとっても生活の利便性が向上するといった視点での取組も必要と考える。		
(2) 道内外及び東アジア圏を始めとした諸外国に向けた観光PR戦略を展開する	圏域内の外国人宿泊客数(人)	180,741	332,000		『観光PR戦略を展開する』のであれば、「観光客の国籍・居住地域の分布」「実際にPRした国・地域の数」などを指標等に追加した方がよいのではないか。	海外PRについては今後毎年継続して行うか否かは未定であり、経年データとして把握できるかが不透明であるため、今回の改正では成果指標としての設定はしないが、実績把握は行っていくものとする。
4 教育	圏域内の文化・体育施設、文化財等への来場者数(人)	55,099	55,110			
(1) 社会教育施設などの公共施設の共同利用を推進する	圏域内の文化・体育施設の利用者数(人)	2,646	2,650			
(2) 圏域内の文化財、史跡など、多様な文化遺産を保護し、その利活用を図る	圏域内の文化財・史跡等の来場者数(人)	52,453	52,460			

- 1 -

政策分野 具体的取組	基本目標 ・成果指標(KPI)	現状値	目標値	懇談会での意見	パブリックコメントでの意見	意見に対する考え方
5 福祉・安心な暮らし	成年後見センター・消費者センターの共同利用の維持継続 (再掲)成年後見センター・消費者センターの共同利用の維持継続	共同利用の維持継続 共同利用の維持継続	共同利用の維持継続 共同利用の維持継続	福祉分野として、指標が成年後見センターのみでよいのかという印象があるが、『相談件数』は受動的で年によって較差も生じることから、センターで養成を行っている「市民後見人」の方がよいのではないかと。	本来、相談事案が発生しないような地域にすることが、望ましい姿と思われるため、利用や相談件数の現状維持ということには、違和感がある。	「市民後見人」については、今後は登録人数の増を図るよりは、質の向上に向けた取組を重視していきたいと考えている。 いずれの取組についても定量的な指標設定が困難なため、基本目標と同様、「共同利用の維持継続」に変更する。
6 地域公共交通	①広域的なバス路線の路線数(積丹線・余市線・銀山線・赤井川線)(路線) ②広域的なバス路線(積丹線・余市線・銀山線・赤井川線)の年間運行回数(合計) ③圏域内の各JR駅における乗降客数(人/日) (1) 圏域内の公共交通の利用の促進を図る 積丹線・銀山線・赤井川線の年間輸送人員(各路線合計)(人) (再掲)圏域内の各JR駅における乗降客数(人/日) (2) 多様な交通手段の組合せにより、地域の生活環境や観光客の利便性などを確保する 各市町村におけるコミュニティバスの年間輸送人員(積丹町・古平町分の合計)(人)	4 7,773 33,894 329,950 33,894 25,353	4 7,700 35,600 330,000 35,600 25,300	・減少を目標としづらいが、人口減少が進む中、いずれの目標値も達成が困難と思われる。 ・共生ビジョンには「バスシェルターの整備への支援」の記載もあり、実施されれば少しでも目標達成に近づける可能性もあるので、検討願いたい。	JR函館本線は圏域内の重要な交通手段になっていることから、「JRの利用客数」も基本目標や成果指標に含めた方がよいのではないかと。	各市町村人口ビジョン・総合戦略等の取組による減少の歯止めと観光利用の増などにより現状維持を図ることを目標とし、今回の改正では原案どおりとする。 また、パブコメの指摘のとおり、「圏域内の各JR駅における乗降客数(人/日)の合計」を基本目標と施策(1)に追加する。 (H27年33,894人/日 ※H27.11月JR北海道調べ、国交省ダウンロードデータから)
7 情報格差の解消へ向けたICT(情報通信技術)インフラの整備	小樽後志地域医療連携システム(ID-Link)に登録している圏域内の医療機関数(か所) (再掲)小樽後志地域医療連携システム(ID-Link)に登録している圏域内の医療機関数(か所)	10 10	10 10			
8 道路等の交通インフラの整備	圏域内の高速道路や国道、道道の整備促進 ・北海道横断自動車道(余市～小樽間)の完成(平成30年度予定)など 駅や港、高速道路、国道などの基幹交通と連結する道路網の形成に向けた取組を推進する 札幌自動車道の通行量(台/日)	整備促進 51,780	整備促進 55,000		『基幹交通と連結する道路網の形成』に対する成果指標として、「札幌自動車道の通行量」は関係性がないと思われる。「各インターチェンジの利用台数」であれば、『道路網』というキーワードを含んでいるかもしれない。	現状では、経年把握できるデータが他にないため、今回の改正では原案どおりとする。 なお、今後、高速道路の余市方面への延伸や新幹線駅の新設が見込まれていることから、取組内容を含め、新たな指標について検討する必要がある。
9 生産者と消費者との連携による地産地消	地元農水産物の魅力発信等を目的としたイベントの来場者数(圏域内合計)(人) (再掲)地元農水産物の魅力発信等を目的としたイベントの来場者数(圏域内合計)(人)	38,000 38,000	50,000 50,000			
10 圏域内外の住民との交流及び移住	①圏域内人口の社会増減数(転入－転出)(人) ②(再掲)圏域内の観光入込客数(千人) 首都圏を中心に圏域における暮らしの情報を発信するとともに、居住や長期滞在などの希望に対応できる体制をつくる 圏域内の各市町村が持つ行政情報等を共有し、住民に積極的に提供する仕組みをつくる	△ 933 11,941.5 16 1	△ 880 16,000.0 62 6	移住者数や人口の社会増減など、数値目標そのものよりも、それを達成するための具体的な事業など、もう少し根拠付けを考えていくことが必要である。	『観光入込客数』の指標はこの取組に合致しないのではないかと。「住民との交流イベント開催数・参加者数」の方が望ましいと思う。	観光による交流人口の増加を含め、圏域外からの人の流入増を図る観点からの基本目標として、原案どおりとする。 なお、意見の趣旨は上記9の取組に係る基本目標(圏域内イベント来場者数)により把握できると考える。
11 人材の育成	中心市が実施する各種講座やセミナー等の地域人材育成事業への参加者数(人) (再掲)中心市が実施する各種講座やセミナー等の地域人材育成事業への参加者数(人) 圏域全体の事業の円滑化を図るため、人材を育成するとともに、専門的知識や広い見識を有する人材を確保する	38 38	50 50	・外国人観光客が増えている中、観光に限らず、医療分野も含め、英語を話せる人材の育成が必要であり、その観点からの取組を検討すべきではないかと。 ・現状値・目標値とも低いため、取組を強化したり、現在の実施状況について精査をすべき。	「講座やセミナーの種類数、開催回数等」もカウントした方がより効果的ではないかと。 「専門的知識や広い見識を有する人材の確保」に対する指標が設定されていないのではないかと。	講座等の種類・回数等については実績把握を行っているが、指標としては中間的な成果としての参加者数とし、原案どおりとする。 当該人材育成事業を通じて育成された人数の把握は困難であることから、指標としては中間的な成果としての参加者数とし、原案どおりとする。
12 圏域内市町村職員間における情報交換や意見交換の場の積極的活用 職員間の情報交換や意見交換の場を積極的に設け活用する	圏域内の行政課題解決に向けた意見交換・協議等に係る会議の設置数(件) (再掲)圏域内の行政課題解決に向けた意見交換・協議等に係る会議の設置数	12 12	16 16	当該会議の実施状況について、現状においても該当があるはず。調査するなど、もっと精査すべき。		(別途、共生ビジョン実施事業以外の実績の調査結果により、数値を修正)